

講座その6,

<スズコナリヒラ>この竹はトウチクと2種だけでトウチク属を形成しています。

トウチクよりやや細いですが節間が長い所は同じ特徴で、葉に白条が入るので全体に白っぽく見えます。

用途としては観賞竹で、庭園に植えると緑色の中に白い葉が映えて美観を高め人気があります。

節の周りの枝を切り詰めて丸く仕立てる



タケノコは食用にならない



奥池の南にあったスズコナリヒラ一帯は2020年頃から全て1m 切りを試行し①毎年再生竹を伐り続けた結果、4年後にほぼ稈が抜け②、いまは雑木林の姿に戻っていますが③、今後も引き続き観察し、タケノコと再生竹が出たら除伐する必要があります。 ① ↓ ② ↓



③ ↓



*タケノコは6月から出始めて、7月後半まで出続けるので、最後まで手を抜かないことが大切です。

●番外編<小幡緑地のアオナリヒラタケを見てきました>(2025,5)

20年前頃に小幡緑地本園の広場の一角にはアオナリヒラタケがありましたが、その後新しいタイプの公園として開発されたので様子が一変していました。現在は面積が大幅に拡大し、皮の付いた濃い緑色の新竹と黄色くなった古竹が混じり合った状態となっています。ササではないのに皮が落ちにくい特徴がある竹です。



右奥に濃い緑色で皮の付いたアオナリ ヒラタケが
1~2本あるのが見える

くらしの森、チップ場のユーカリ畑
から見えるアオナリヒラ?のような竹→
(要観察)



<メダケ> 女竹、篠竹、川竹

日本の中小河川の川堤で普通に見られます。漢字では女竹と表記されますが、竹に雄雌はないので、見た目のしなやかな感じを表したものと言われています。タケという名ですが実際はササの仲間、成長しても皮が稈に残っているのですが、当地のつどいの丘西側で見つけた時から皮は根元にしかない状態でした。高さは中型で枝葉が多く出て野鳥が身を隠すのに適します。笛、箆、扇子など竹細工に利用されますが、以前この辺りにあったトウチクが侵入し今年の筍の全てがトウチクだったのが心配です。

2023年頃のメダケ



2024年トウチクを確認



2025年冬



<ヤダケ> 矢竹

くらしの森ではソバ畑の奥やハンノキ湿地の周辺、チップ場横など各地に存在しますが、主に1万歩コース沿いに密集しているヤダケを手入れしています。タケという名ですが大型のササの仲間¹で、節間の大部分が皮で覆われています。稈は細くまっすぐに伸びて節は低く平らなので、昔は実際に弓矢が作られ、釣り竿にも使われました。枝は初め1節から1本出て葉は大型で垂れ下がり美しいのですがここでは巨大化もしています。



<ダイフクチク>大福竹

くらしの森北公園の東入口の植栽の陰で2004年に見つけた時は節間が膨らんだ小型の株でしたが、毎年草刈りで刈られたり手入れを怠っている間に**巨大化してしまったバンブー**です。節間は下部がぼつりするなど様々な異形を呈しながら固くて黄色い枝が込み合っているので、筍の時期を確かめた上で低く切り揃える予定です。

2004年頃のダイフクチク ↓



2023年9月の状態→

2024年冬 北公園に立つダイフクチク ↓

